



ハートで  
ぬくもりと安心を  
お届けします

# さくらだより

第 36号

2016年1月15日



京都老人ホーム (左:1970年代 右:現在)



厨房「きっちんさくら」で働く職員 (左:1970年代 右:現在)

## 特集

### 貧困を考える

- 2016 新年 ごあいさつ
- FREE フリー  
夜勤さん今夜もよろしく
- THEME テーマ  
未来のsougi
- サービスの色々  
リハビリテーション
- リレーコラム
- 編集後記

## 京都老人ホームの今と昔

# 二〇一六年 新年ごあいさつ

社会福祉法人京都老人福祉協会 総合施設長  
東高瀬川センター施設長 柴田雄一

新年あけましておめでとうございます。皆様は今、どこでどのように、このお正月をお迎えでしょうか。

今年の干支は、猿です。日本猿は通常、高い山の中に生息しています。今頃は、吐く息も白くなる寒い高い木の上にいるかもしれません。猿と言っても仲間の猿と群れをなしているか、何かの理由で孤独に一匹はなれているか、さまざまなタイプがあると思います。

昨年は、フランスで同時テロがあり、「イスラム国」により130名もの人が生命を奪われました。その少し前に、我が国では、集団的自衛権行使を含む安保法案が国会で可決されました。賛否両論がありますが、日本国憲法との矛盾は明らかにあると思います。

その後もロシア、アメリカ、イギリスにおいて「イスラム国」によるテロとみられる事件が起こり、油断出来ない情勢にあります。世界的な視野で、この問題を見逃すことはできません。

テロや銃撃戦のない、平和な普通の暮らしができることが、どんなに大切なものであるか、我々はつい忘れていますが、シリアや中東のニュースを見ると、祖国を追われて歩き続ける難民の方がたに比べて、我々が日々普通に生活ができていることは、極めて貴重な素晴らしいことだ

あると思えます。

暗い事件ばかりが多いですが、少し明るい光が見えるのは、ノーベル賞を昨年末に二人の日本人が受賞されたことです。

ノーベル物理学賞の梶田隆章・東大宇宙線研究所長、56歳。ノーベル医学生理学賞の大村智・北里大学特別荣誉教授、80歳。それぞれの研究内容の理解は私にはできませんが、お二人の先生、本当におめでとうございます。

そして宇宙の話ですが、日本の宇宙探査機「あかつき」が5年の月日を経て金星の軌道投入に成功したことは、大変明るいニュースです。地球とよく似た大きさの金星の写真が送られてきました。この電波は、すごい距離を結び付けるのです。今後の調査結果が楽しみです。

これらは、どれも大変遠い宇宙や物理学や微生物の世界の話ですが、私達の目の前には、子育てや介護や障害者支援の課題などが山積しています。

新しい年を迎えて、気持ちを新たに、引き続きこれらの課題に、

組織的に、仲間と連携して取り組んで参りたいと存じます。その基本は、やはり「利用者本位」です。介護職員の確保がなかなか難しい昨今ですが、その職員の思いも大切にして、大きな輪を作っていきます。



## 夜勤さん今夜もよろしく

24時間、365日。職員が絶え間なく交代でサービスを提供し続ける仕事はたくさんあります。京都老人福祉協会でも職員が夜勤に就き、ご利用者の暮らしを支え続けている事業所がいくつもありません。夜勤職員は日勤と違う時間帯に働くので体調の管理が必要になります。

当法人の様々な部署で夜勤の仕事に就いている多数の職員の中から13人の職員に協力を得て、体調管理で気をつけていること、夜勤を続ける上で励みになっていることを聞いてみました。多様な声が得られましたが、特に代表的なものを紹介させていただきます。

### 体調管理で気をつけていること

- 日々早寝早起きを心がける。(50代女性)
- 夜勤明けで疲れが残らないようストレッチを行う。(20代女性)
- 夜勤中、座っていられる時間は座っている。(20代女性)
- 風邪予防にうがいや手洗いを欠かさない。(40代男性)

### 夜勤を続ける上で励みになつてくると

☆その他にも色々な工夫が聞けましたが、自分にあつた睡眠リズムを見つけていることは、ほぼ全員に共通した留意点のようでした。

- 夜勤明けは高校生の息子の登校時間に帰宅できないが、自分で朝食を作って食べて登校してくれているのが有難い。(40代女性)
- 夫も夜勤がある仕事に就いているので、両親が子どもの世話をしてくれるなど家族の協力が得られていることがうれしい。(40代女性)

- 夜勤のある部署とない部署に約3年毎に異動してきた。夜勤のある時期は夜勤入り・明けの昼間の時間を資格試験の勉強に充て、夜勤のない時期は体力の要る登山等の趣味を楽しむことで人生を楽しむようにしている。(30代男性)
- 夜勤明けの開放感があるので頑張れる。若い子が頑張っている姿を励みにしている。(30代女性)



☆様々な声が聞けましたが、声を寄せてくれた職員ほぼ全員が感謝していることがありました。

これは夜勤の時間帯でのご利用者との心のふれあいです。ご利用者からの「ご苦労様」「ありがとう」等の言葉に元気を頂いていること、夜勤だからこそご利用者と心を開いてお話できたエピソード等をたくさん聞けました。

### コラム

#### 当法人内の夜勤のある事業所

当法人で夜勤業務があるのは、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、短期入所生活介護(ショートステイ)、夜間対応型訪問介護、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能型居宅介護です。

各事業所の業務の違いにより一労働(7時間半)、二労働(15時間)と勤務時間等は異なりますが、その日の朝から夜勤者に交代までのご利用者の情報を引き継いで援助に入り、翌日の職員に着実にバトンを渡すように日々努めています。



特集

# 貧困を考える



貧困

主に経済的な理由によって生活が苦しくなり、必要最低限の暮らしもおぼつかない状態。貧困には貧困線という線引きがあり、統計上、生活に必要な物を購入できる最低限の収入を表す指標となります。

それ以下の収入では、一家の生活が支えられないことを意味し、貧困線にある世帯や個人は、娯楽や嗜好品に振り分けられる収入が存在しないということになります。

そして、貧困は「絶対的貧困」と「相対的貧困」の2種類に分類されます。

## 「絶対的貧困」

所得、栄養、健康、教育などの水準が著しく低く、極めて貧困な状態にあること。つまり、地球で生きるにあたって、最低限必要と考えられている食料、生活必需品を購入するためのお金がない状況が「絶対的貧困」です。主に開発途上国で起きている問題といえます。

絶対的貧困は2008年の約14億人から2012年には約9億人に減少傾向にあります。

※世界銀行は2015年10月、国際貧困ラインを2011年の購買力平価（PPP）に基づき1日1.9ドルと設定しています。



## 「相対的貧困」

先進国での貧困問題は「相対的貧困率」をもとに考えられます。

ある国の地域社会の平均的な生活水準と比較して、所得が著しく低い状態であり、相対的貧困率は単純な購買力よりも、国内の所得格差に注目する指標であるため、日本など比較的豊かな先進国でも高い割合になっています。

絶対的貧困は直感的に理解ができ、支援する側も分かりやすい現状がありますが、日本は、豊かな国と言われながら相対的貧困率が高い国であり、貧困の実態がわかりにくいところに問題解決の難しさがあるといわれています。教育や福祉などさまざまな面での問題がありながら把握が困難なため見えていない、豊かな国ゆえの貧困問題を考えることが必要です。

## 「先進国30カ国中 相対的貧困率が6番目に高い日本」

下6人に1人が貧困線を下回る日本の現状

- 1位 メキシコ
- 2位 イスラエル
- 3位 チリ
- 4位 アメリカ
- 5位 トルコ
- 6位 日本

日本の全人口が約1億人となりますので、約1600万の人々が貧困状態であるということになります。

内閣府調べによると、子どもの相対的貧困率は1990年代半ば頃からおおむね上昇傾向にあり、2012年には16.3%となっています。子どもがいる現役世帯の相対的貧困率は16.1%であり、そのうち大人が1人の世帯の相対的貧困率が54.6%と、大人が2人以上いる世帯に比べて非常に高い水準となっているのが現状です。

OECD（経済協力開発機構）2011より

## 子どもの貧困

経済的理由により就学困難と認められ就学援助を受けている小学生・中学生は平成24（2012）年は約155万人で、平成7（1995）年度の調査開始以降初めて減少しましたが、その主な原因は子どもの数全体の減少によるものです。就学援助率は、この10年間も上昇を続けており、平成24（2012）年度は過去最高の15.64%となっています。

「子どもの貧困」とは、所得が低い家庭の子どもが低学力・低学歴となり、将来不安定な就業に陥ることで、次の世代にまで貧困状態が連鎖していく（＝貧困の世代間

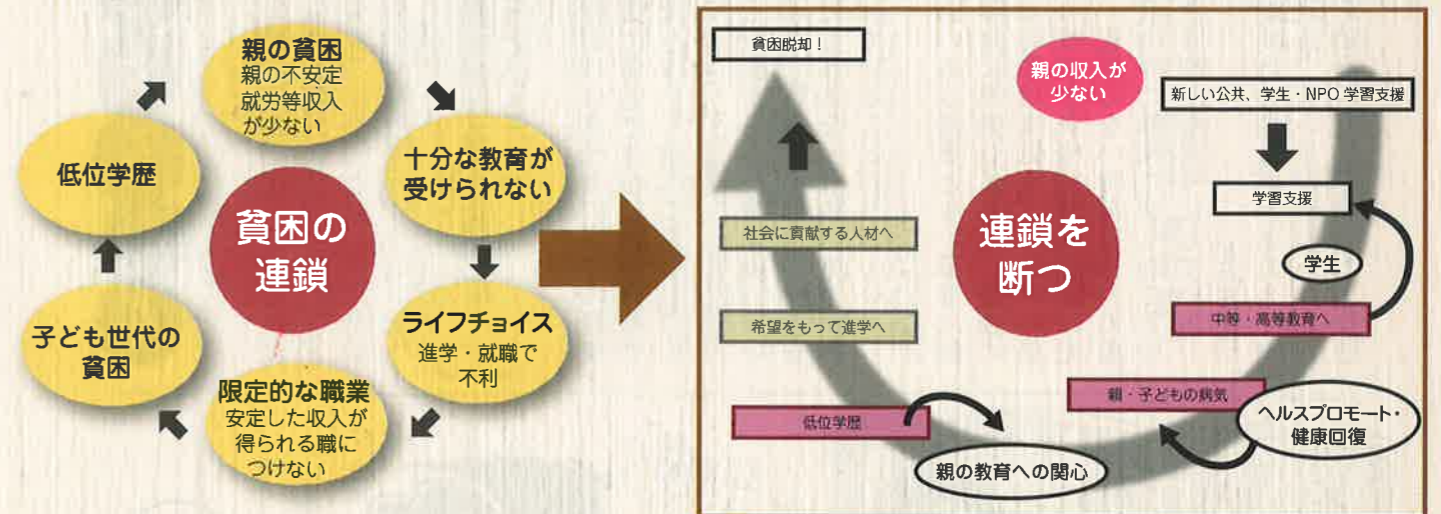
連鎖）問題です。このような貧困状態にある子どもは今日日本に約6人に1人の割合で存在しており、年々増え続けています。

「相対的貧困」とはときに「絶対的貧困」と同じレベルのダメージを人に与えます。

「周りのみんなにとって当たり前の生活が自分だけ享受できない」という状態は、子どもたちに破壊的なダメージを与えます。

そして、「なんで僕だけ？」を繰り返した子どもたちは、もうその言葉を言わなくなります。その代わりに、ある言葉を繰り返すようになります。それは「どうせ、僕なんて」というような言葉です。

## 子どもの貧困連鎖を断つ 内閣府子どもの貧困対策に関する検討会参照



## 貧困の連鎖を断つのは難しい

グラフで表すと簡単で分かりやすいですが、やはり貧困の連鎖を断つのは難しいことでしょう。世界の貧困と聞くと、遠い話のように感じますが、「貧困」というワードは意外と身近にひそんでいるのだと思います。

親の心身の問題に子どもは影響され、虐待(身体的虐待、育児放棄、ネグレクト…)、親が働ける状態ではなく生活が困窮、など十分な生活を与えてもらえず貧困に陥っていく…。

今の時代はそのような子どものケアだけではなく、親のケアも必要になっていくと思います。子どもたちには何の責任もなく、親の問題に巻き込まれているといっても過言ではないでしょう。

そんな中で子どもたちを救い出すにはどうしたらいいのでしょうか。

貧困世帯の子どもたちは選択肢がなく、家庭からも出られない状況が多くあります。そんな子どもたちの居場所を作り、安心できる環境を提供することが必要になりますが、

やはり簡単なことではありません。

一つひとつの問題を解決していくのは本当に難しいことですが、行政に伝え、大きなネットワークで子どもたちを守り、援助していくことが大切なのだと思います。地域に根ざした私たち法人としても、学習面の援助や生活面、精神面でのサポートをし、子どもたちに「見守っているよ」と安心感を与えていきたいと思っています。そしてこの現状を訴え、見つめていかなければいけないと思います。

子どもだけではなく、経済的にギリギリの生活を送っているため、ご本人のニーズに沿った介護サービスが受けられないと悩む高齢者もおられます。サービスが受けられないことによって、十分な食事がとれない、入浴ができず不衛生、排せつ物による感染症等の問題につながってしまうこともあります。

以上のような目に見えている問題の解決、連鎖を断つことに手を差し伸べる一方、相対的貧困のように一見、目に見えにくい問題に対し、「見えるようにする」こと、そして「何が出来るのか」を考えることも、私たちに与えられた使命の一つと考えます。



# 未来のsougi



## 昔と現在

葬儀のスタイルは、時代とともに変化しています。地域に根ざした葬儀は次第に姿を消し、人が亡くなると広く関係者に知らせる葬儀・告別式を行い、多くの人で故人を見送るという従来のスタイルも変わってきているようです。宗教観や人生観、死生観、家族観の変化が、葬儀に対する意識を変える要因となっています。この傾向は都心部に多く見られ、地域に行けば大規模な葬式がよい、とされている所もたくさん残っています。

近年はごく親しい人だけでお別れをゆつくりと過ごしたいという考えから、お別れを十分にできる家族葬や密葬が増えてきました。葬儀スタイルが多様化し、伝統的な形にとられない色々なスタイルの葬儀が増えていきます。また、エンディングノートというものがあがり、若い時から考える機会ができて、注目を集めています。

費用は少子化のため、残された遺族への負担が大きい等の理由により低くなってきていますが、他の国と比べても類を見ないほど葬儀費用総額は高額なため、今後はさらに多様化と低額化に向うのではないのでしょうか。

## 未来

社会環境の変化に加え、宗教観の変化や金的・経済的な面から、今後も小規模化が進み「直葬」が増加するのではないのでしょうか。遠方の会場でも負担なく参加できるようまるで会場に居る?!と感じるバーチャル葬儀インターネット葬儀というものも出てくるのかもしれないですね。故人の意志を尊重し、見送る人たちが大切な人

を失った悲しみ等の心の整理ができ、後悔しないお別れであればいいのではないのでしょうか。自由な発想で自分たちの故人を思う気持ちで葬儀を行う、新しいスタイルが今後たくさん出てくるのではないかと思います。

## 京都老人ホームでの取り組み

施設事業部では利用者さん、またはご家族から、終末期をどのように迎え、過ごしたいか聞き取りも行っています。終末期を迎えられてからは「看取りに関する計画書」を作成し、利用者さん、ご家族の希望、緊急時の対応、葬儀についてなど詳しく記載し最期まで希望に沿えるように書面を作成し、利用者さんに携わる職員全てが分かるようにしています。終末アンケートは1年に1回更新のため聞き取りをおこなっています。終末アンケートの希望には「私はお坊さんは呼ばなくていい」や「直接火葬場へ」や「ホームのみんなや顔なじみの職員に見送ってほしい」などさまざま希望があり、希望に沿った最期を迎えられるようにしています。



ホームでの葬儀も2日間行われることもあれば、お別れ会という形式で、お坊さんをお呼ばずに最後のお別れをされることもあります。またご家族の希望、費用の希望などがあり最近の傾向としてはホーム葬より祭典ホールで最後のお別れをされることが多くなっています。



## もっぴ、ずん、ハグ、私たちの使命とは...

ワークパートナー 所長 熊谷幸江



私がこの法人に初めてお世話になったのは、今から30数年前のことである。

その当時のことをご存じの職員の方々もほんのわずかになった。入職後5年で退職し、13年間は専業主婦として過ごしていた頃が懐かしい(若かったなあ)。

復職させて頂いてからも14年の年月がたち、様々な事業に取り組みさせて頂いたことを感謝している。

適時適温、管理栄養士配置加算、栄養ケアマネージャー、介護予防事業といろいろな栄養管理業務に携わらせて頂いたお陰で管理栄養士としての視野も広がり、施設の高齢者の方々だけでなく、地域の高齢者の食事の現状や栄養管理について知ることができ、今後の課題も見えた。

あと数年で退職?...このまま管理栄養士としての仕事をさせて頂けるものと思っていたが、人生そんなに甘くなかった。

きつちん「さくら」で仕事をさせて頂いていた頃(今から10数年前)から、障がい者雇用や特別支援学校の実習受け入れ等をさせて頂いたためか、昨年の就労継続支援A型開所と共にこの事業をさせて頂いている。

現在、法人の中でもワークパートナーYUIの存在が少しずつ浸透していき、YUIのメンバー(利用者様)ができる仕事も各事業所で分かって頂いたところもあり、かなりの仕事内容が増えた。法人の事業が多岐にわたっている事からYUIの仕事内容も多岐にわたっている。このことがYUIの特色で、障がいがあった仕事をマッチングしやすい。けれどまだまだ仕事に足りないのが現状である。

開所当初は、5名だったメンバーも現在15名になり、1年半たち、それぞれのメンバーの成長も目を見張るものがある。ワークパートナーYUIの最終目標は、メンバーが

一般就労することである。YUIから一般企業へ就労することも大切ではあるが、せっかく成長した人材を流出するより、法人内の力として活かすことが重要ではないかと思っている。法人内では、人材不足も大きな課題であろう。社会福祉法人では、社会の役に立っていることを感じる場面が多々ある。

それぞれの事業所(部署)で仕事の切り出しをして頂き、その隙間の仕事をさせて頂くことが、法人の人材不足の手助けになると考える。それぞれの障がい者の能力をきちんと引き出し、YUIのメンバーが法人の中で活躍できると信じて支援していくことが私たちの使命だと思つ。

そして、就労継続支援A型(就労継続支援B型)、就労移行支援等の併設)を目指し事業拡大を考えていき、障がい者の方々が増える場を少しでも広げていきたいと思つ。

また、障がい者だけでなく、高齢者も子ども達も地域の一人として、生活を支えて行く事が社会福祉法人で働く職員の使命であり、誰もが安心して暮らせる「共生の社会」の実現を目指すことが大切だと思つ。

## 編集後記

広報委員になり2度目の発行となりました。学生の時から文章を書くことがとても苦手で、どのように表現したらよいか悪戦苦闘しながら、委員会での意見を参考に作成しています。

記事づくりでは知らないこと、漠然としが分かっていたいなかったことも、そうなんだあつ!と深く知ることができ、いろんな視点で考える機会となり勉強になっています。そして、自分が調べ取材した記事が広報誌に載ることをうれしく思います。

今後は常識に捕らわれない発想で、自分の得意なイラストを活かし、読みたい!「さくらだより」に役立っていたらと思います。

広報委員 細見起未子

# リハビリテーション

フィジカルセラピスト  
理学療法士 Physical Therapist  
京都老人ホーム医務室所属



菅原先生

小野先生

菅原先生：利用者さんの生活の質の向上を目標に、より良いリハビリアプローチが出来ればと日々、試行錯誤しております。

小野先生：その人らしい活動性のある日常生活動作や豊かな行為を行なっていただけるように努めます。

## 理学療法士とは

理学療法士は、ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発症が予測される人に対して、基本動作能力（座る、立つ、歩くなど）の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法（温熱、電気等の物理的手段を治療目的に利用するもの）などを用いて、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職です。治療内容については、理学療法士が対象者について医学的・社会的視点から身体能力や生活環境等を評価し、それぞれの目標に向けて適切なプログラムを作成します。



## リハビリ活動紹介

京都老人ホームにおけるリハビリは、生活リハビリが中心になります。24時間通して利用者さんの日々の生活に、リハビリを取り入れていきます。例えば、ベッドで横になる動作を例にあげてみます。一見、簡単な動作に思えますが身体関節が固くなった人や、感覚が鈍くなった人にとってはベッド上で寝る動作は苦痛に感じます。苦痛に感じた状態のまま放っておくと全身の筋肉に力が入った状態が長時間続くことになり、痛みが出現してきます。そこでリハビリアプローチとしては、安楽に過ごして頂くことを目的に、ベッド上でクッション等を使用し、ポジションニングに介入します。そして安楽に過ごして頂き、全身の筋肉の緊張を少しでも緩和させ、関節の固さや痛み、感覚の程度に対して

## その他の活動紹介

改善を促します。このようなリハビリアプローチは、みなさんが想像するような活動的なリハビリとは違いますが、老人ホームにおける利用者さんの身体機能にとって非常に重要なものになります。

## 今後の活動

利用者さんの生活リハビリに対してさらに力を注いでいきます。キーワードは「役割」です。利用者さんの生活歴、趣味や嗜好を考慮し、それぞれの利用者さんに適した役割を担って頂き、いきいきと生活して頂きたいと考えています。また、職員の腰痛予防対策として、職員の皆様に具体的なアプローチが出来ればと考えております。



歩行練習中



関節可動域運動



褥瘡・拘束委員会の研修中